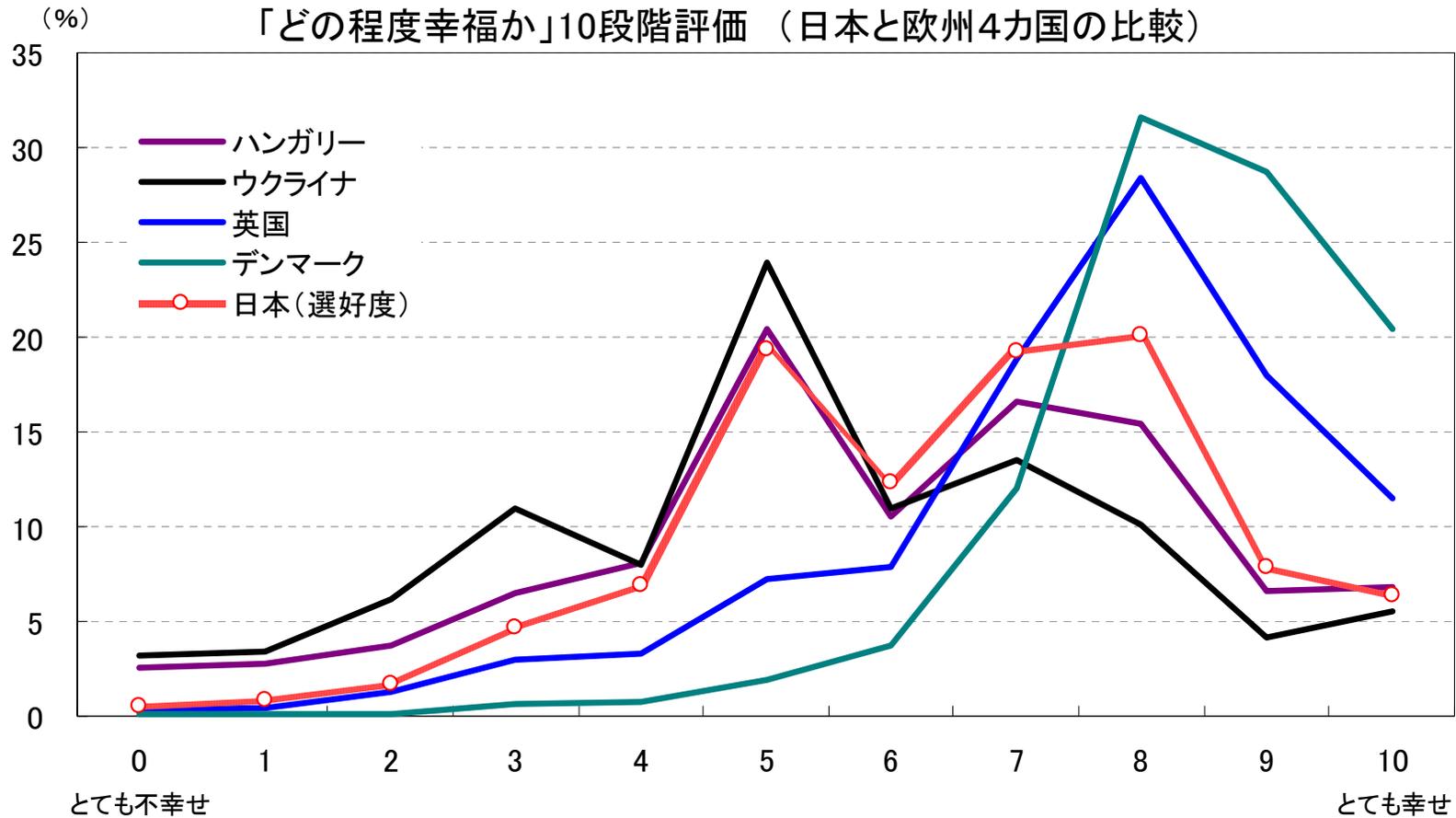


平成21年度国民生活選好度調査の概要

- 国際比較 P.1
- 所得別 P.2～7
- 男女別 P.8
- 年齢別 P.9～14
- ボランティアと幸福度の関係 P.15

「どの程度幸福か」の国際比較

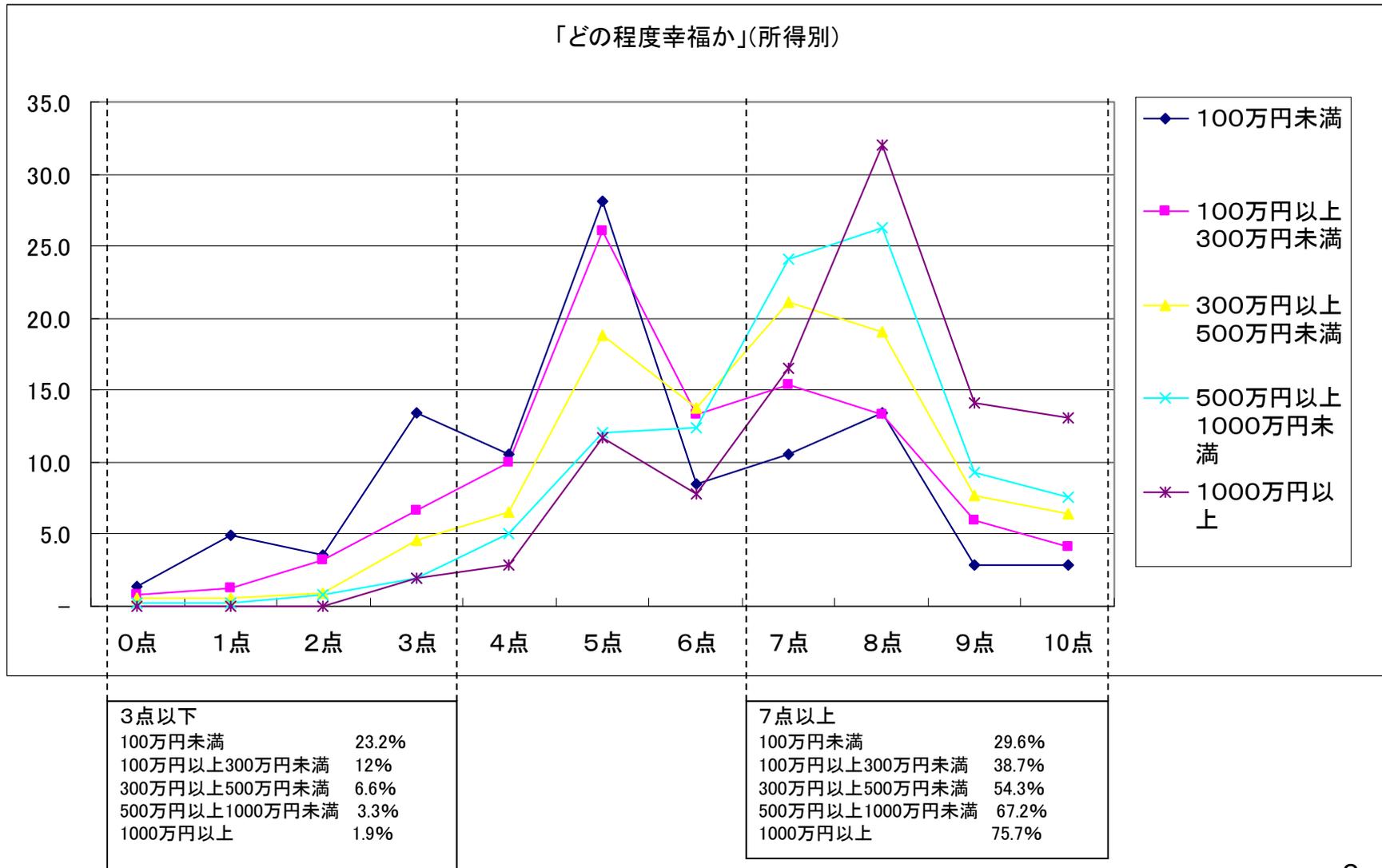


(出所) 日本は国民生活選好度調査。欧州4カ国は2008年欧州社会調査より作成。

「どの程度幸福か」(所得別)

問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

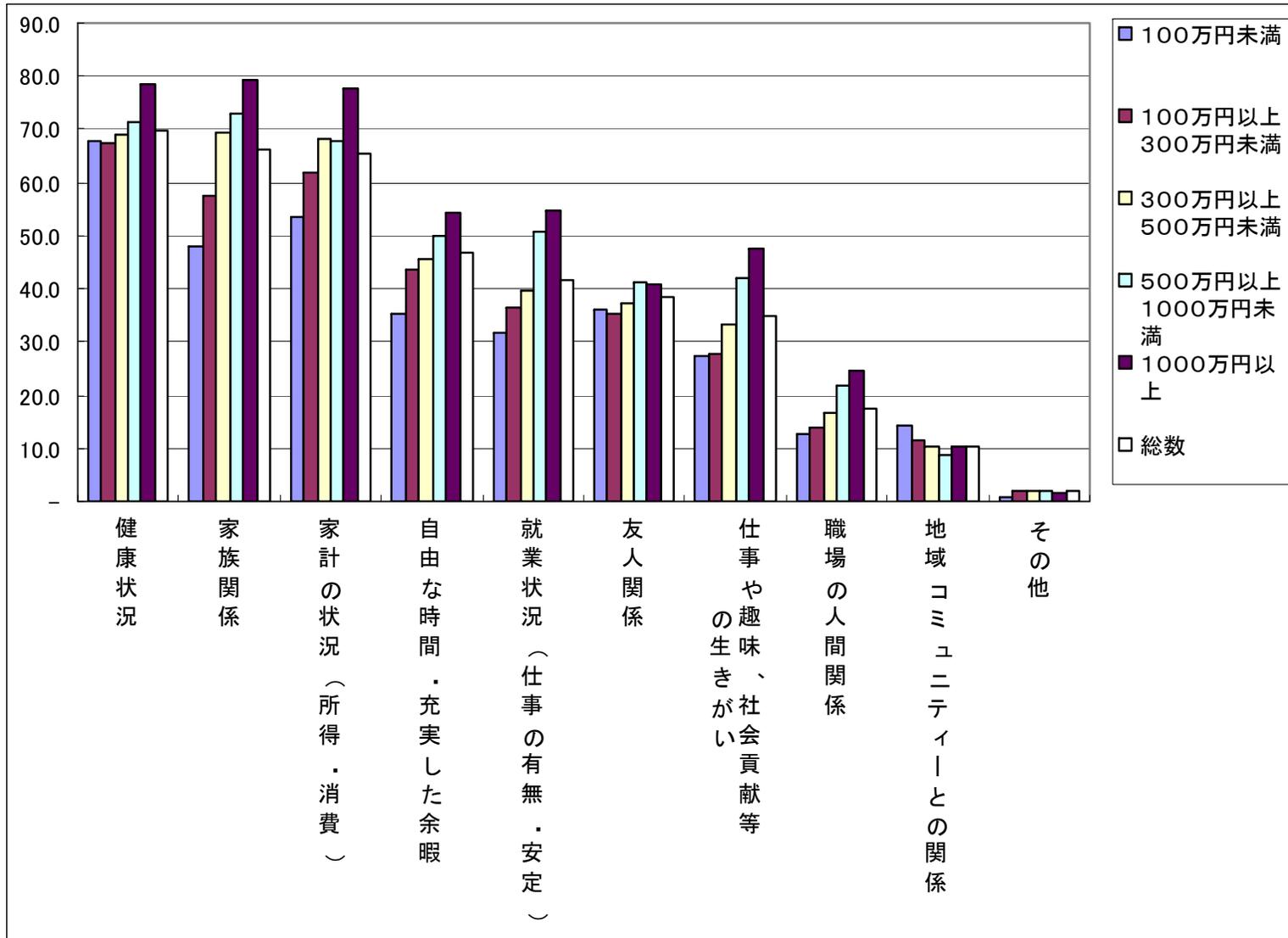
低所得者ほど幸福度が低い者の割合が高く、所得が増えるにつれ幸福度が高い者の割合が高くなる。
所得の多寡は幸福感の判断に影響を与えていると言える。



幸福度を判断する際、重視した事項(所得別)

問 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○を付けてください。

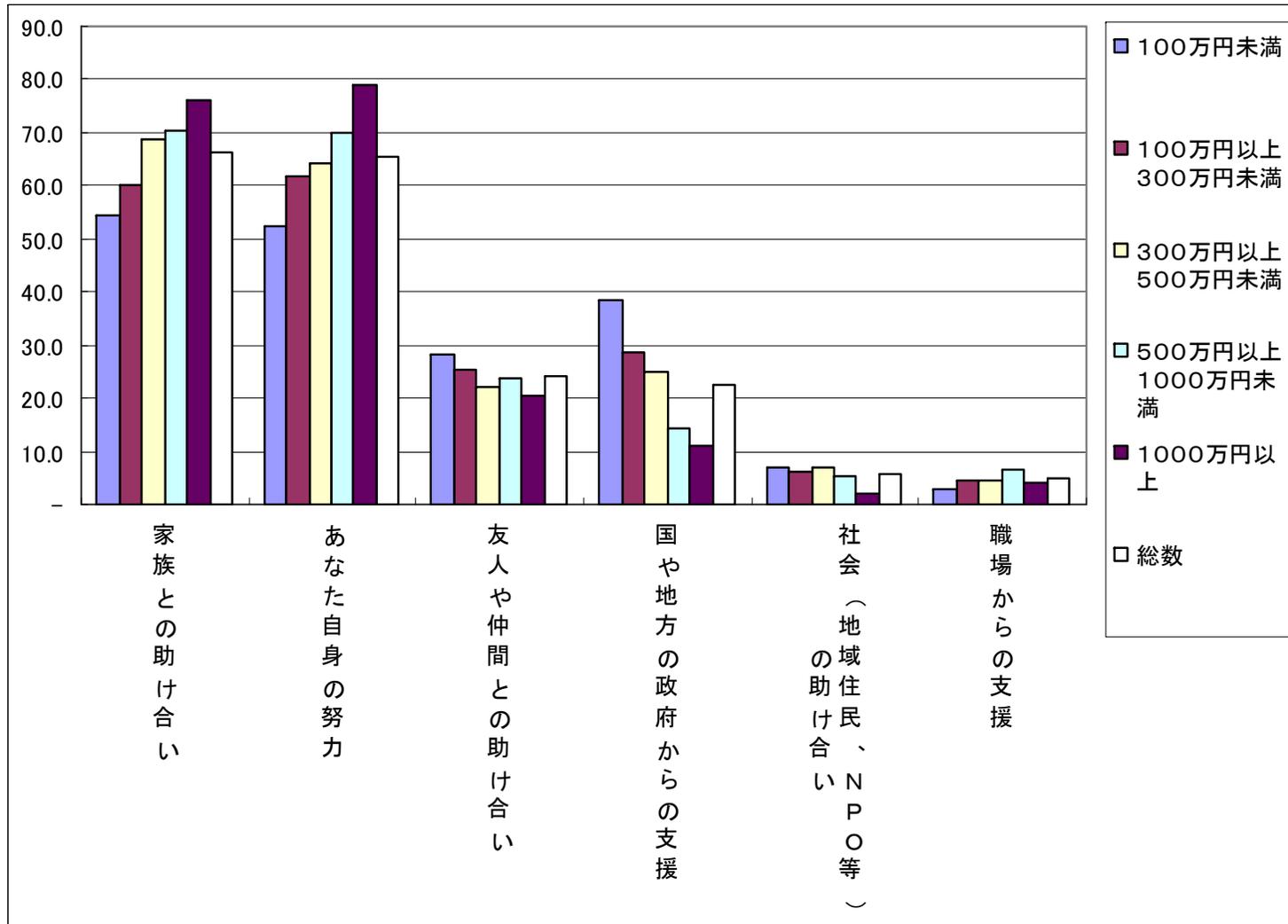
- ・どの所得層においても幸福度に影響する3大要素は「健康状況」、「家族関係」、「家計の状況」となっている。
- ・高所得者層(特に1000万円以上)は各要素に比較的高い関心を示しているが、低所得者層(特に100万円未満)では関心が低い。



幸福感を高めるのに有効な手立て(所得別)

問 あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものに2つまで○を付けてください。

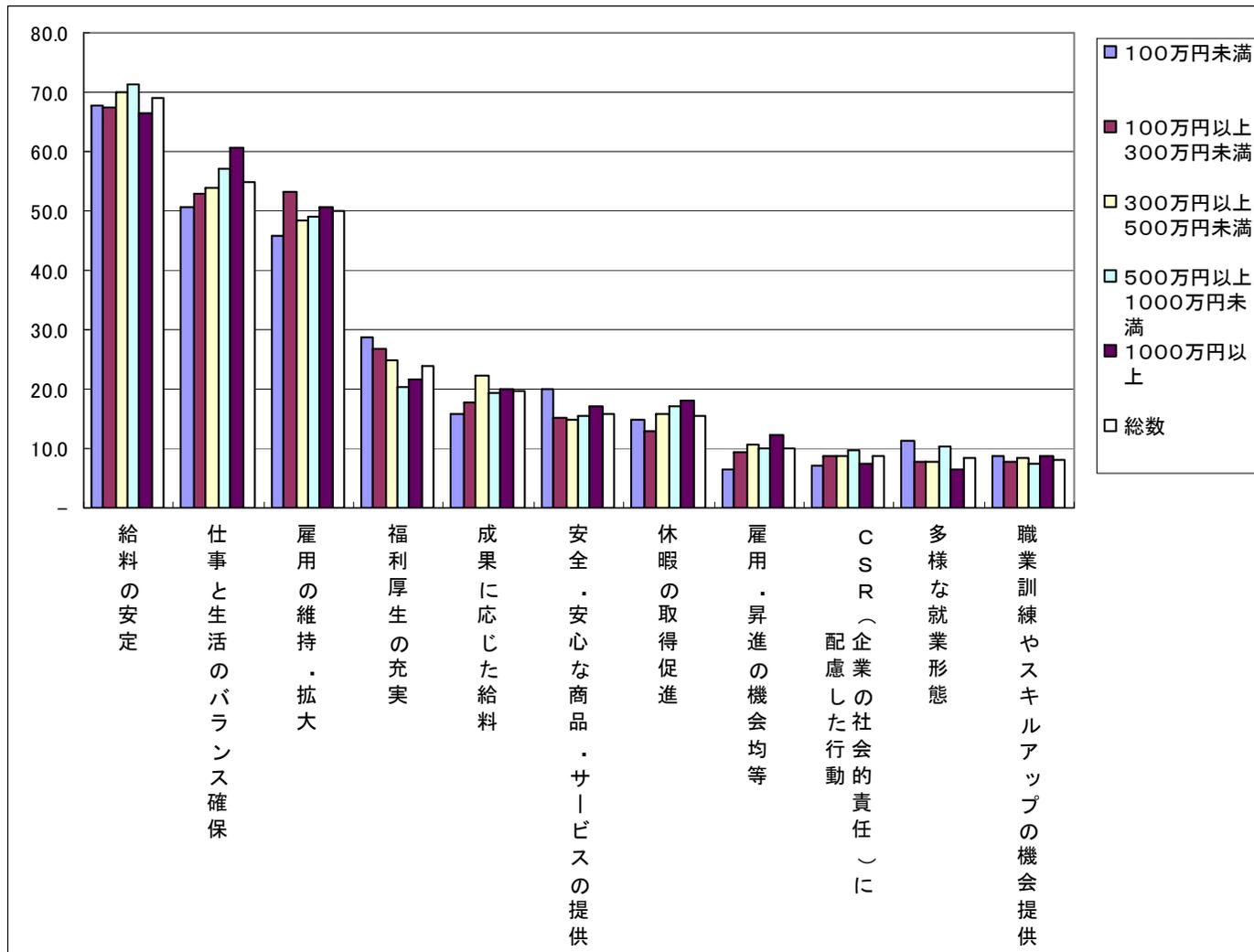
幸福感を高める手段としては、高所得者ほど、「家族との助け合い」、「自身の努力」という身近なところをあげている。また、所得が低いほど「国や地方の政府からの支援」を必要としていることが見受けられる。



企業への期待(所得別)

問 企業や事業者による次のような行動のうち、その職場で働く人々や社会全体の幸福感を高めると思うものは何ですか。最も重要と思うものに3つまで○を付けてください。

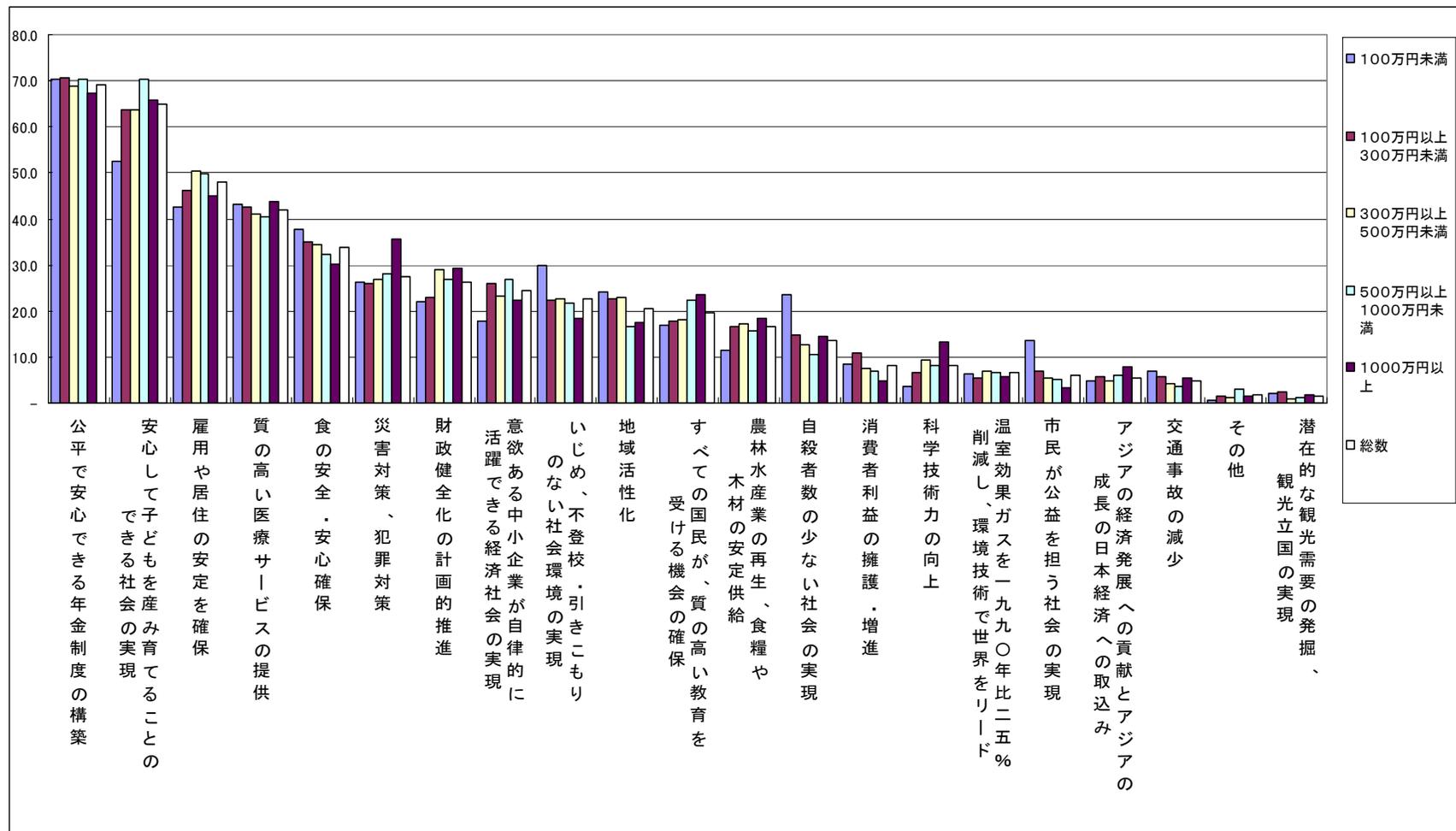
高所得者ほど、「仕事と生活のバランス確保」を重視。



政府が目指すべき政策目標(所得別)

問 国民全体、社会全体の幸福度を高める観点から、政府が目指すべき主な目標は何だと思えますか。最も重要と思うものに5つまで○を付けてください。

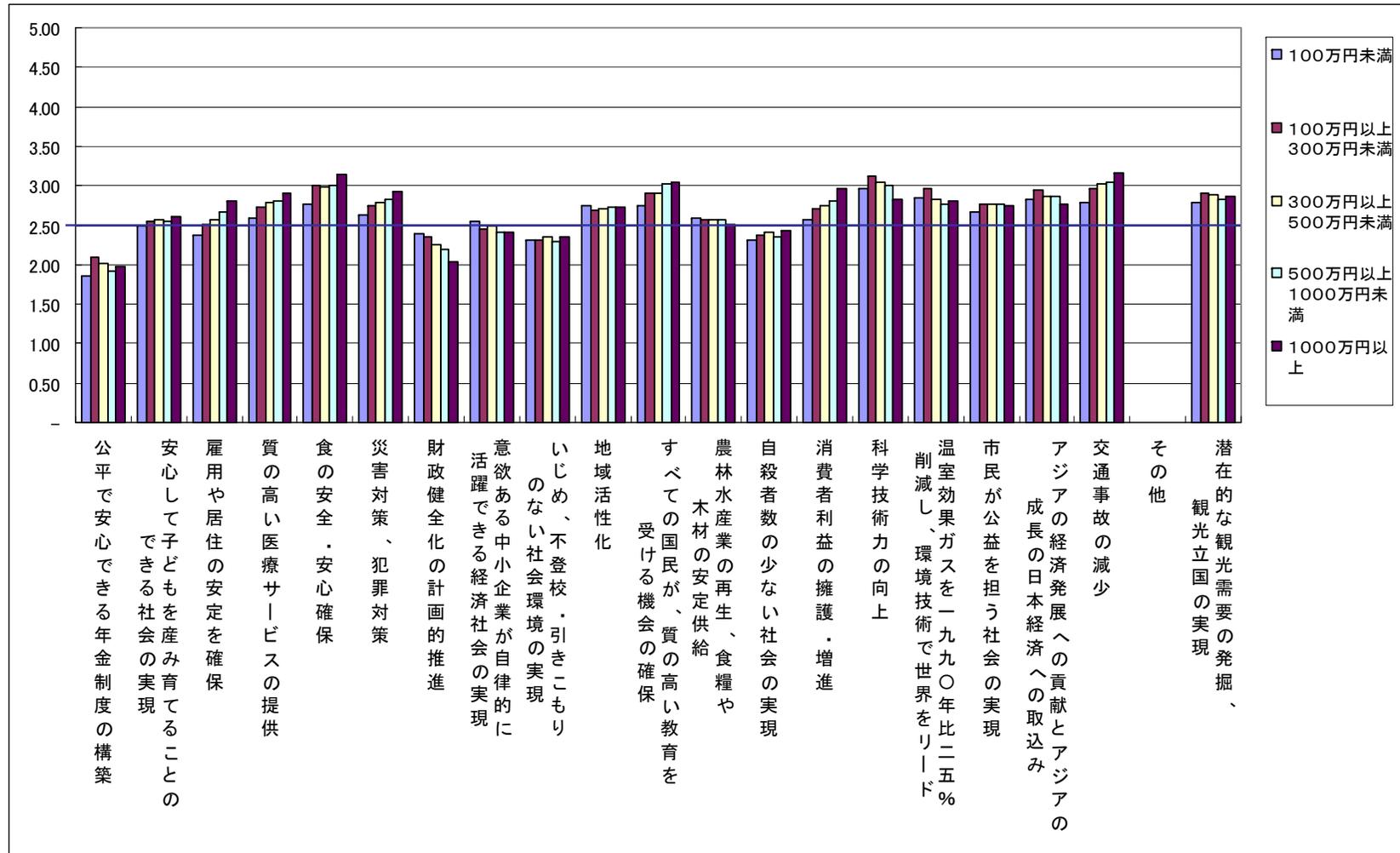
・いずれの所得層でも、最も政府が目指すべき目標は「公平で安心できる年金制度の構築」。
 ・100万円未満で、高所得者と比較して期待の高い政策目標は「いじめ、不登校・引きこもりのない社会環境の実現」、「自殺者数の少ない社会の実現」、「市民が公益を担う社会の実現」など。



政策に対する満足度(所得別)

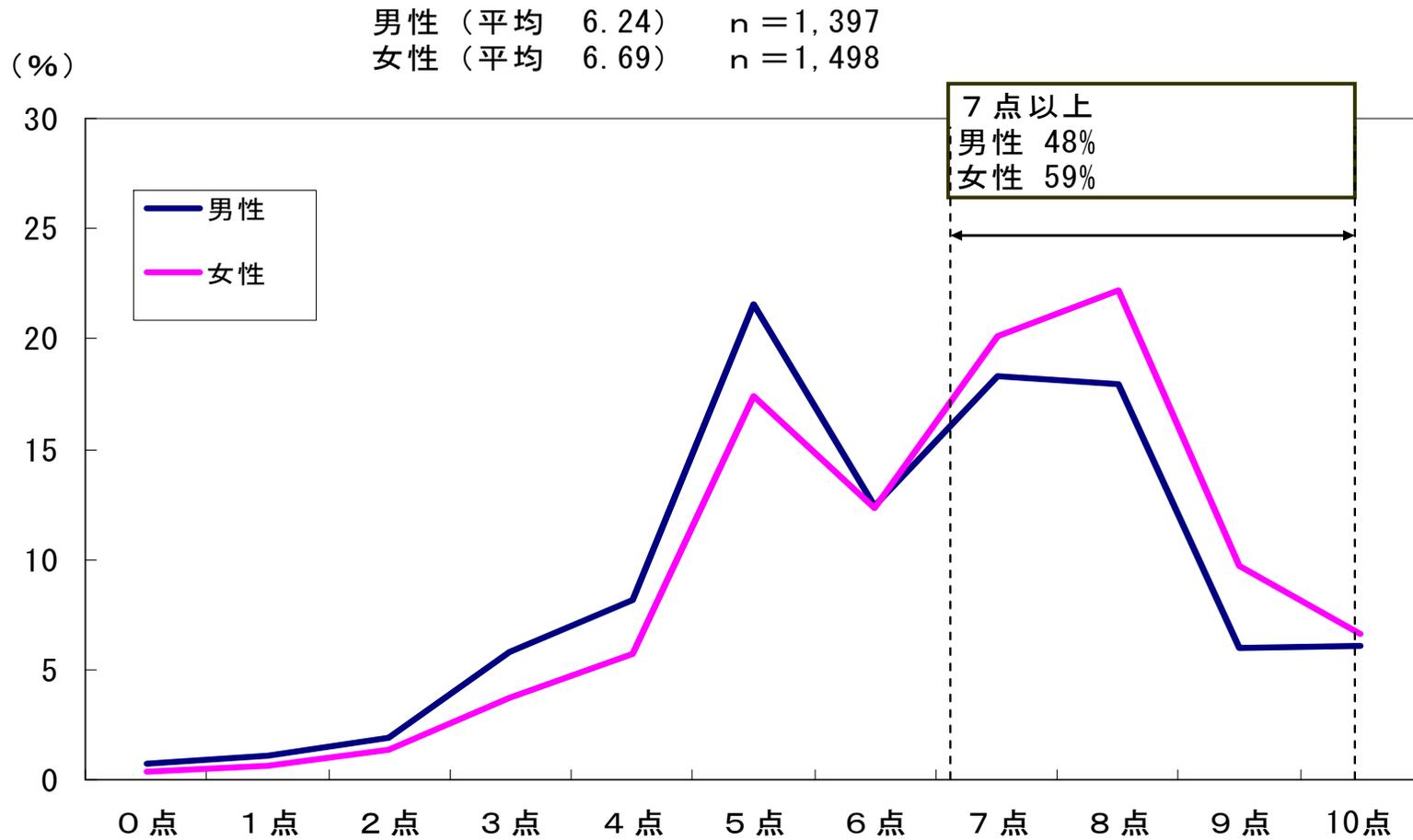
問 次のそれぞれの政策目標について、現状、あなたはどの程度満足していますか。ひとつひとつの事柄について、「満足している」から「不満である」まであなたのお気持ちに最も近いもの1つに○を付けてください。

- ・どの所得層でも、最も不満足度が高いのは年金制度について。
- ・財政健全化に関しては、所得が高くなるほど不満足度が高い。



「どの程度幸福か」 (男女別)

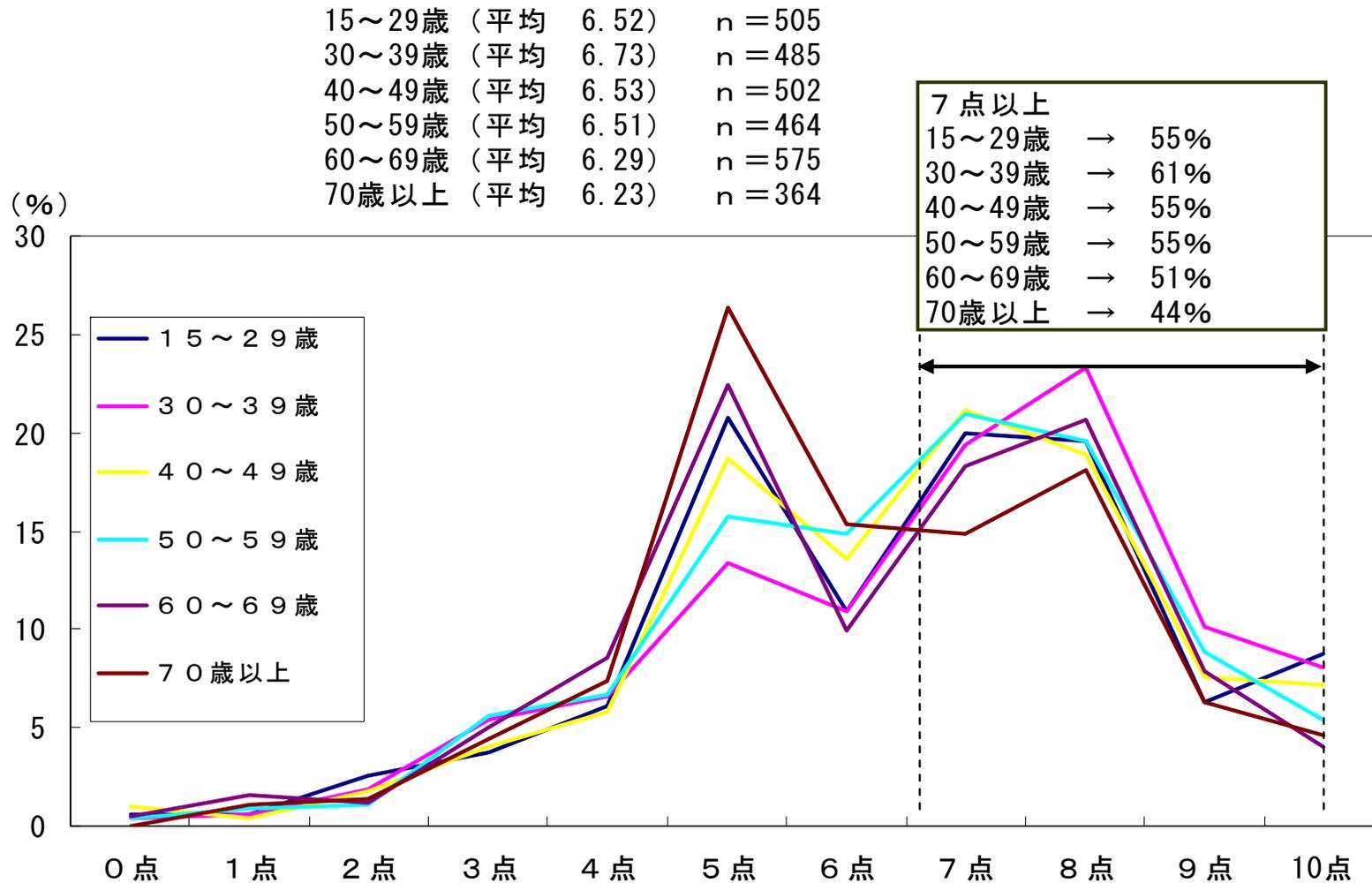
問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。



「どの程度幸福か」(年齢別)

問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

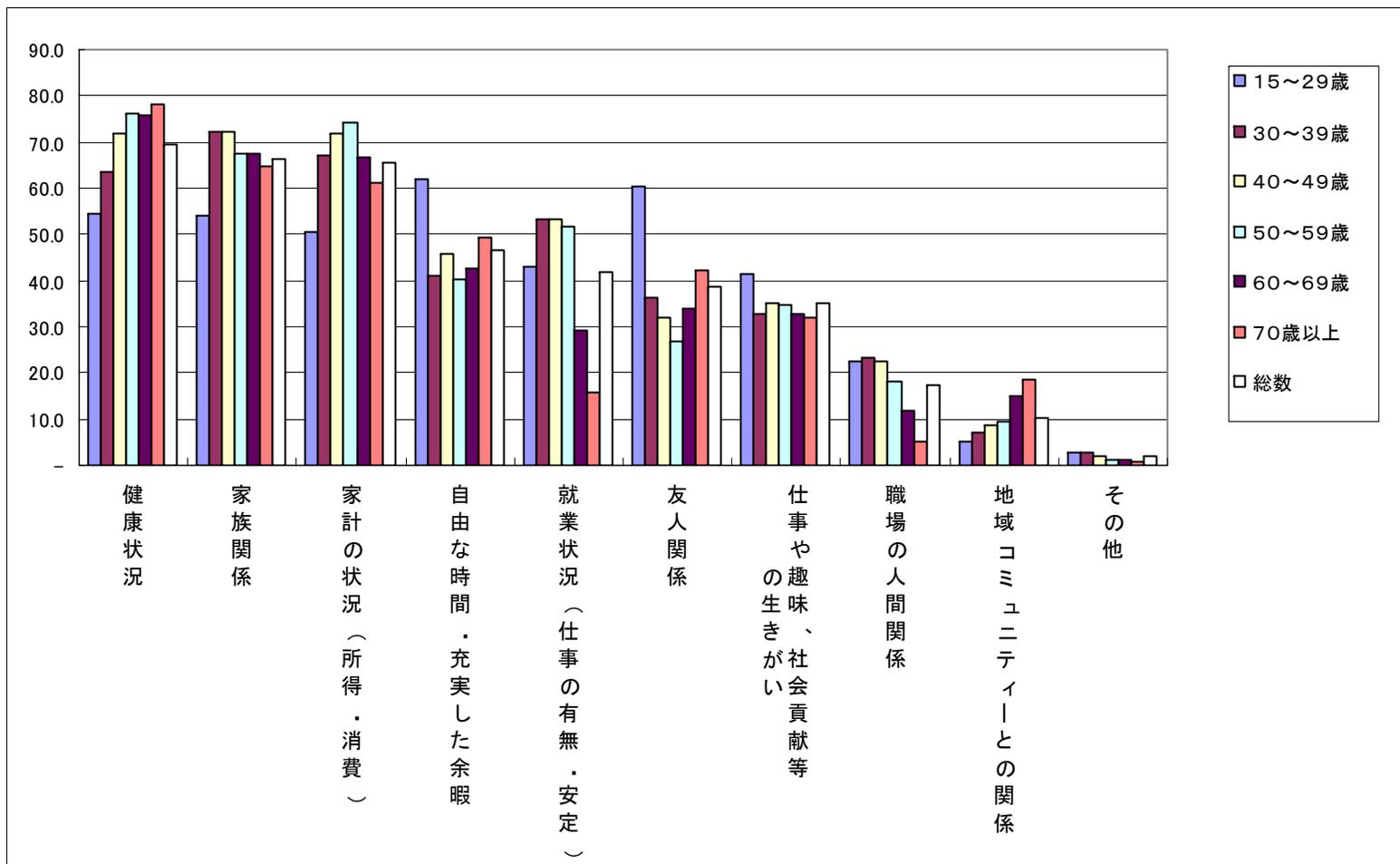
30～39歳で7点以上をつけるものの割合が最も高い(60.8%)。15～29歳、40～49歳、50～59歳ではほぼ同じ水準(54%台)。60～69歳では若干割合は低下し(50.8%)、70歳以上ではおおきく低下する(43.9%)。



幸福度を判断する際、重視した事項(年齢別)

問 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○を付けてください。

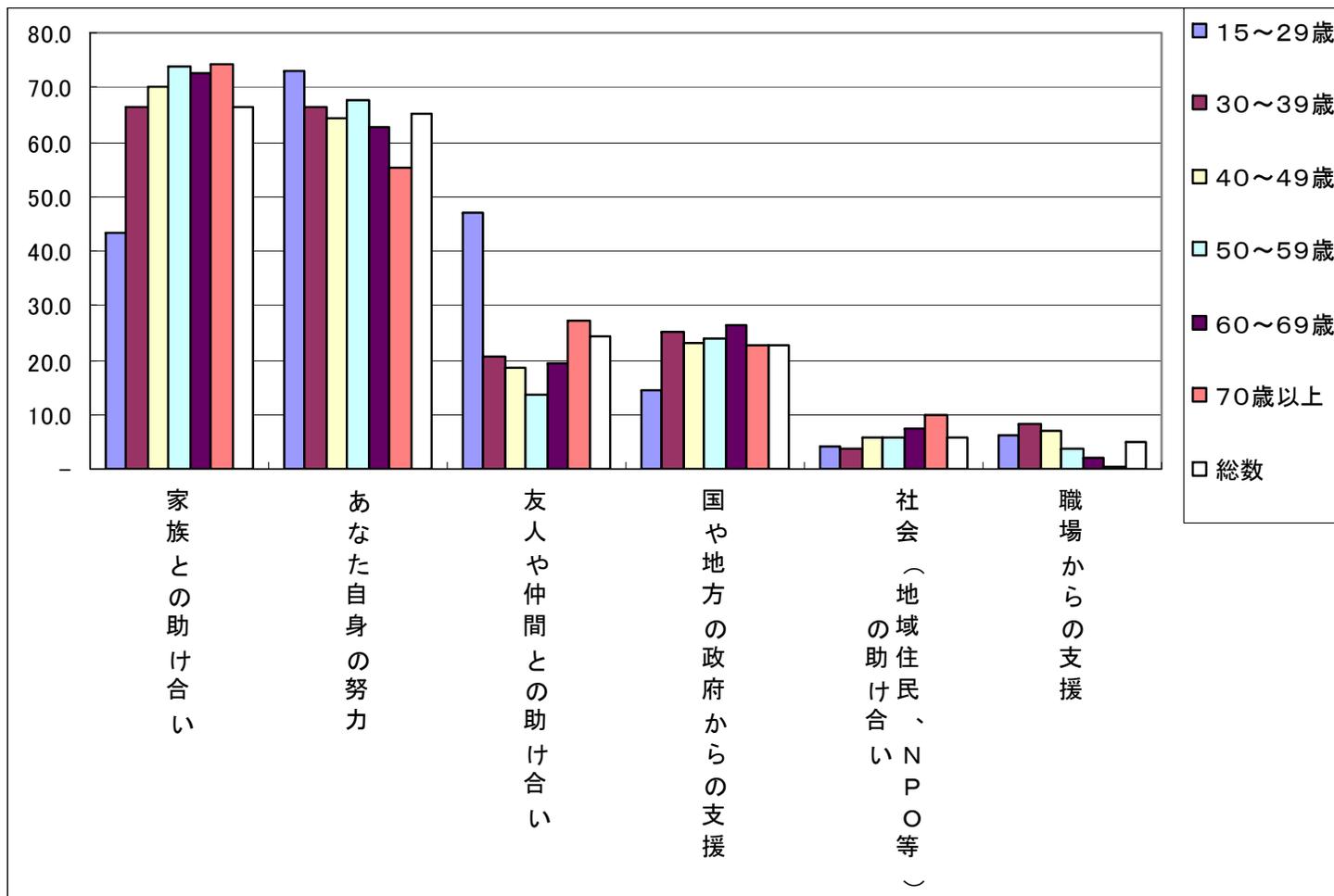
- ・15～29歳では、「自由な時間・充実した余暇」、「友人関係」が重視されるトップ2である。
- ・30～49歳では、「家族関係」、「家計状況」がトップ2であり、それに「健康状況」、「就業状況」が続く。
- ・年齢階層が上がるにつれ、「健康状況」が最も重視される項目となる。また、現役世代と退職世代で、仕事に関連する項目の重要度が大きく異なる。



幸福感を高めるのに有効な手立て(年齢別)

問 あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものに2つまで○を付けてください。

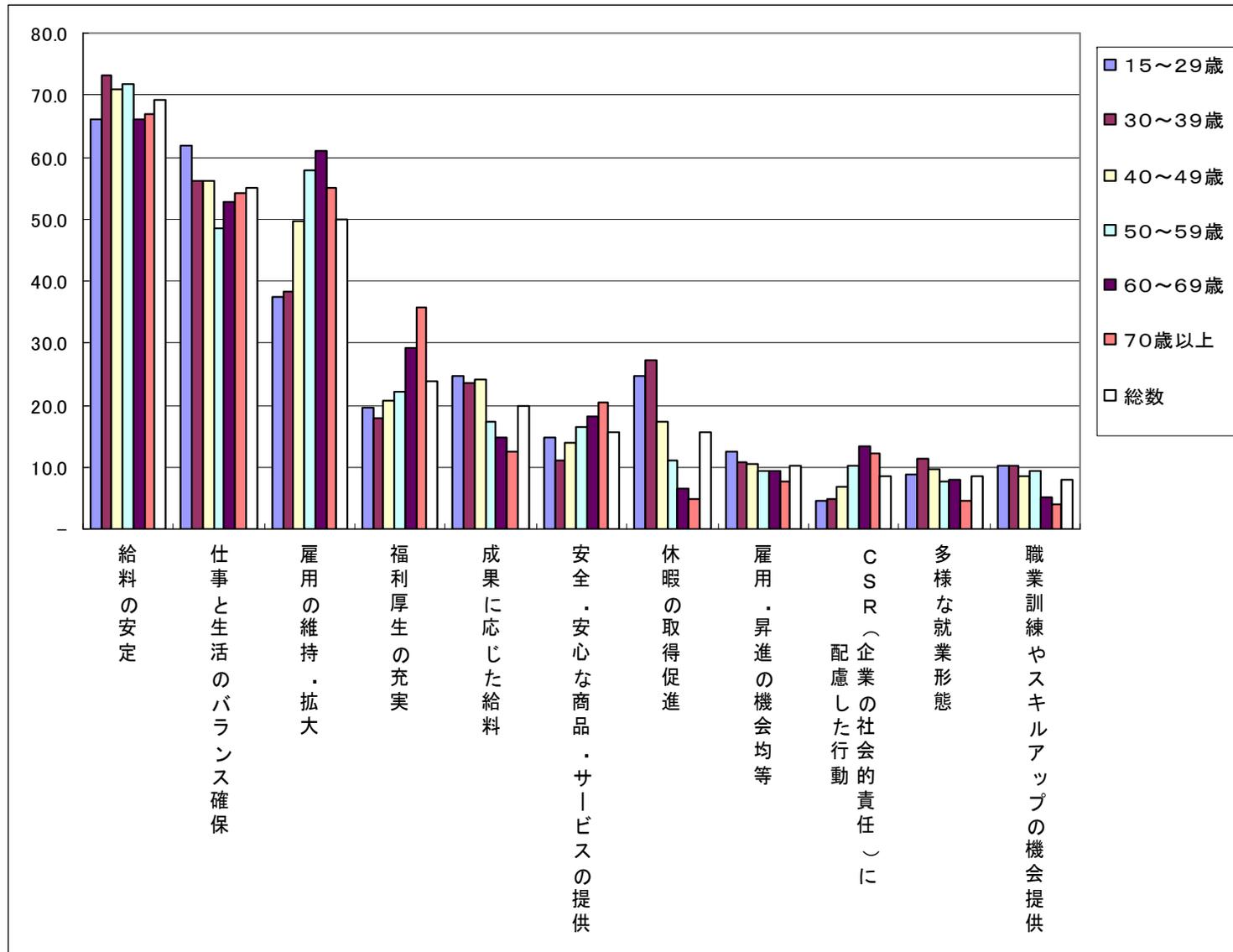
- ・年齢層が若いほど「あなた自身の努力」をあげるものの割合が高くなる傾向があり、年齢層が高まるほど「家族との助け合い」、「社会の助け合い」をあげるものの割合が高くなる傾向がある。
- ・15～29歳で「友人や仲間との助け合い」の割合が突出して高いのは特徴的。年齢層があがるにつれ低くなり、50～59歳を底に60歳以上から再度高まってくる。



企業への期待(年齢別)

問 企業や事業者による次のような行動のうち、その職場で働く人々や社会全体の幸福感を高めると思うものは何ですか。最も重要と思うものに3つまで○を付けてください。

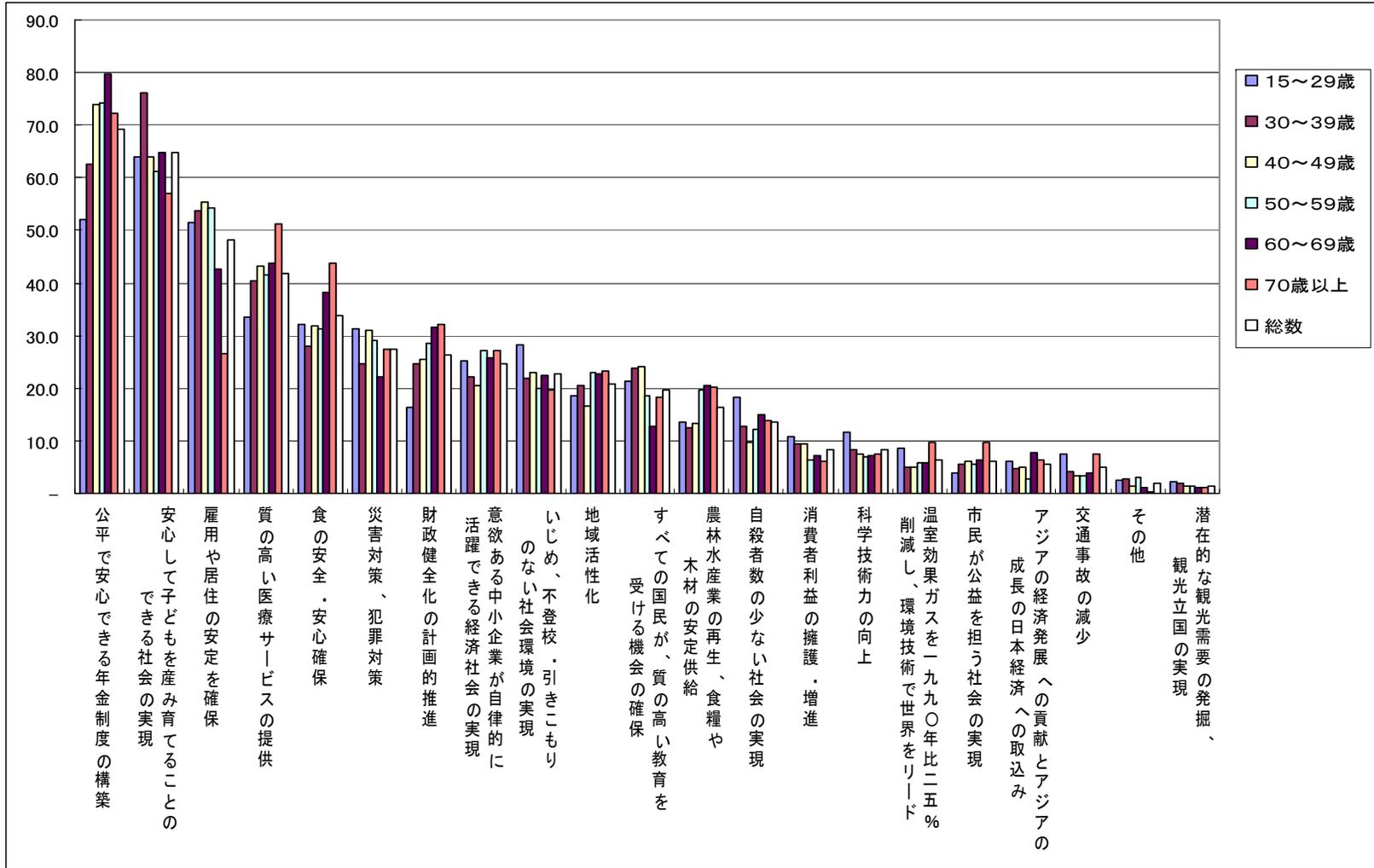
- ・どの年齢層でも、最も重視されるのは「給料の安定」。
- ・「雇用の維持・拡大」は年齢があがるにつれ高くなり(特に40歳以上から)、70歳以上になるとやや低下する。
- ・「休暇の取得推進」は、15～39歳でより重視され、40歳以上の年齢層では段々低下している。



政府が目指すべき政策目標(年齢別)

問 国民全体、社会全体の幸福感を高める観点から、政府が目指すべき主な目標は何だと思えますか。最も重要と思うものに5つまで○を付けてください。

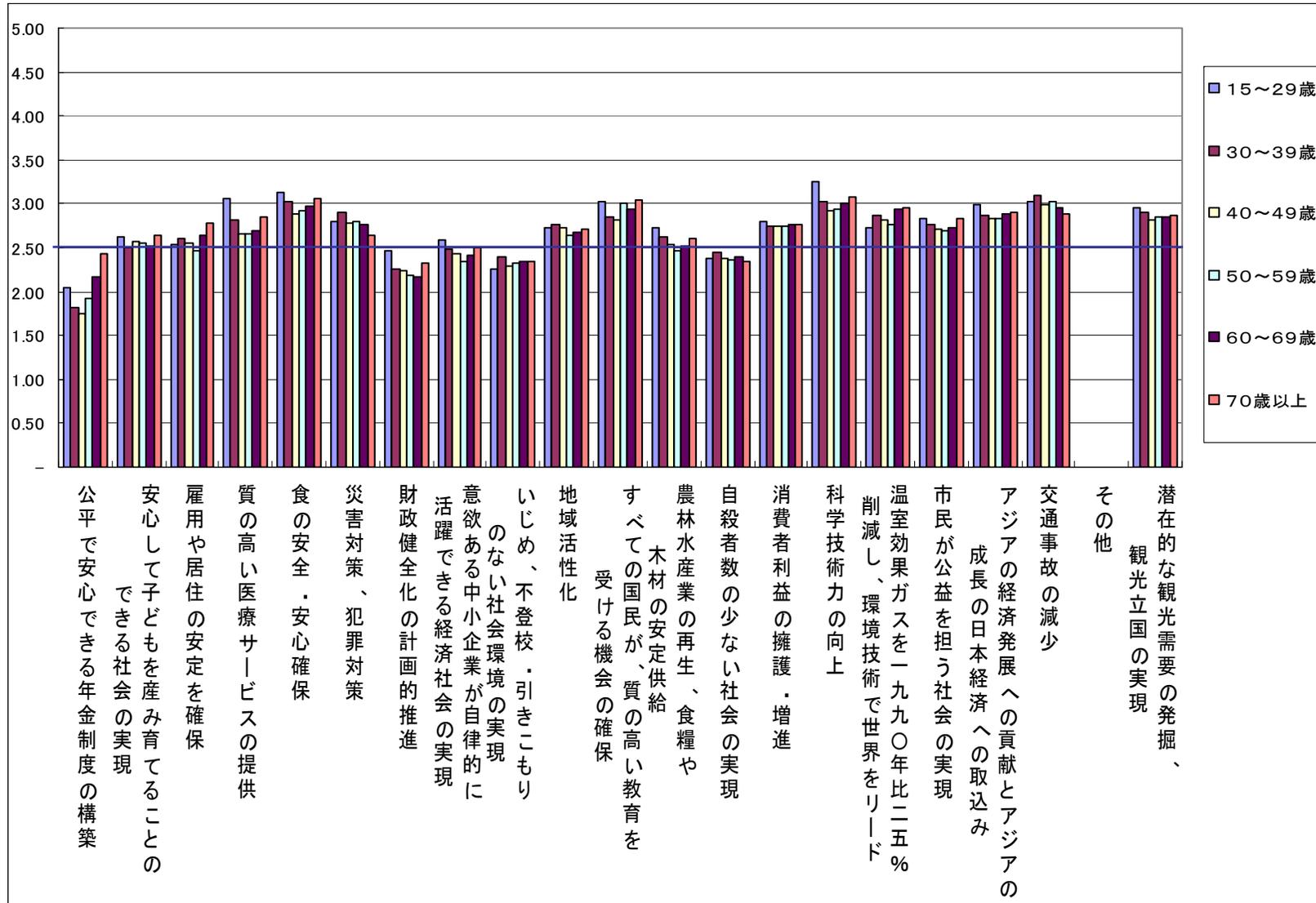
- ・15～29歳では、他の年齢層に比べて「いじめ、不登校、引きこもりなどのない社会環境の実現」、「自殺者数の少ない社会の実現」等を重視。
- ・39歳以下の年齢層では「安心して子どもを産み育てることのできる社会の実現」が最も重要な目標。
- ・40歳以上になると、「年金制度」が最も重視される。
- ・70歳以上になると、他の年齢層に比べて「質の高い医療サービスの提供」、「市民が公益を担う社会の実現」等の項目を重視。



政策に対する満足度(年齢別)

問 次のそれぞれの政策目標について、現状、あなたはどの程度満足していますか。ひとつひとつの事柄について、「満足している」から「不満である」まであなたのお気持ちに最も近いもの1つに○を付けてください。

- ・60歳未満の世代において、最も不満足度が高いのは年金制度。
- ・60歳以上の不満の第1位は、財政健全化の計画的推進である。



「どの程度幸福か」(ボランティア等の活動参加の有無別)

問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

ボランティアに参加している人の方が、幸福度が高い。

